

Pregnancy and Birth Survey of the Fukushima Health Management Survey:
Review of 4 Surveys Conducted Annually After the Disaster
福島県県民健康調査「妊産婦に関する調査」：震災後4年間の調査報告

石井佳世子

福島県立医科大学

著者

石井佳世子¹、後藤あや¹、太田操¹、安村誠司¹、藤森敬也¹

1 福島県立医科大学

要約

福島県立医科大学では、妊産婦のからだやこころの健康状態を把握し、必要に応じて電話相談などの支援を提供することを目的として、2011年度より県民健康調査「妊産婦に関する調査」を実施しています。ここでは、2011年から2014年まで実施された4年間の調査から得られた主な研究結果をまとめました。初年度調査における早産、低出生体重児、先天奇形の全体的な割合は、全国調査の値とほぼ同様でした。また、母親のうつ傾向の割合は4年間を通じて約25%と変わりませんでした。要支援者の電話支援内容については、放射線に関する相談割合が、経年的に減少傾向を示しました。今後も福島県に住む母親への支援を提供するため、本調査を引き続き実施していく必要があります。

掲載情報

「Asia Pacific Journal of Public Health」(2017)

Ishii K, Goto A, Ota M, Yasumura S, Fujimori K

Asia Pacific Journal of Public Health. 2017 Mar; 29(2_suppl):56S-62S.